

小倉駅新幹線口(北口)地区整備構想の見直し(案)について

1. 構想見直しの背景について

小倉駅新幹線口地区については、平成3年の小倉駅北口整備構想(平成16年構想見直し)や平成17年の北九州市都市計画マスタープラン小倉北区構想、平成20年の中心市街地活性化基本計画(小倉地区)等に基づき、官民が一体となって活性化に向けた多様な事業に取り組んできた。

さらに、本地区に300万人の集客を目指し、平成26年に都心集客アクションプランを策定した(平成27年4月一部改訂)。また、平成27年4月に北九州スタジアムの整備に着手し、幅広い世代の集客のきっかけづくりになるものと期待されている。

このような中、本地区の更なる活性化や集客力の向上のため、今後の土地利用の方向性などを見直す必要がある。

2. 構想見直しの方向性とゾーニングについて

(1) 方向性と方針について

方向性	方針(概要)
<u>まちが</u> <u>「にぎわう」</u>	<ul style="list-style-type: none">■文化・スポーツを通して夢と感動を生み出す空間の形成■身近な自然とふれあい、憩い、集うことができるオアシス空間の形成■海とのふれあいや関わりを大切にした親水空間の形成■都市機能が複合的に連携し、さらなる賑わいの場の形成
<u>まちで</u> <u>「交流する」</u>	<ul style="list-style-type: none">■都心地区の活性化に寄与するコンベンション機能の拡充■立地特性を活かした商業・業務・サービスなどの都市機能の集積■都心地区の集客力を強化する交通環境の形成
<u>まちで</u> <u>「暮らす」</u>	<ul style="list-style-type: none">■多様な生活・安心サービスを提供する生活支援拠点の形成■地区の集客力・魅力向上に向けた官民連携による取組みを推進■コンパクトシティの実現

(2) ゾーニングの見直しについて(別添資料①)

現構想	構想見直し(案)
シンボルゾーン	変更なし
アメニティゾーン	変更なし
コンベンションゾーン	エリアの見直し
ウォーターフロントゾーン	エリアの見直し
ビジネスゾーン	名称変更・エリアの見直し⇒ワーク・ライフゾーン
—	新規設定⇒アクティブゾーン

3. 具体的取り組み(別添資料②)

本地区の賑わい創出、さらに都心全体の賑わいにひろげるため、賑わい施設の整備を行うとともに、回遊性の向上を図る。

(1)新たな集客施設

○北九州スタジアム（15,000人以上収容可能）

(2)周辺施設との連携による魅力づくり

○（仮称）浅野町緑地（約4,000㎡）

(3)歩行者ネットワークの強化・充実

○横断歩道橋（延長35m、幅8m）

○スタジアム外周デッキ（全長450m、幅5～15m）

○港湾緑地（約6,000㎡）

(4)歩行者ネットワークの形成

○小倉駅からアクティブゾーンまで、空間特性を活かした主動線の検討

○歩行者系誘導サインの検討

(5)民間活力の導入

○遊休地などを含めた土地活用の促進

4. 今後の取り組みについて

小倉駅新幹線口地区は、賑わいや交流の拠点として、都市機能の強化や都心部の魅力向上を図り、民間事業者の投資・開発意欲を高める。

(1)用途制限の見直し

港湾計画等の土地利用に関する規制のあり方を見直しを検討し、都市的土地利用を促進する。

(2)都市再生緊急整備地域の指定

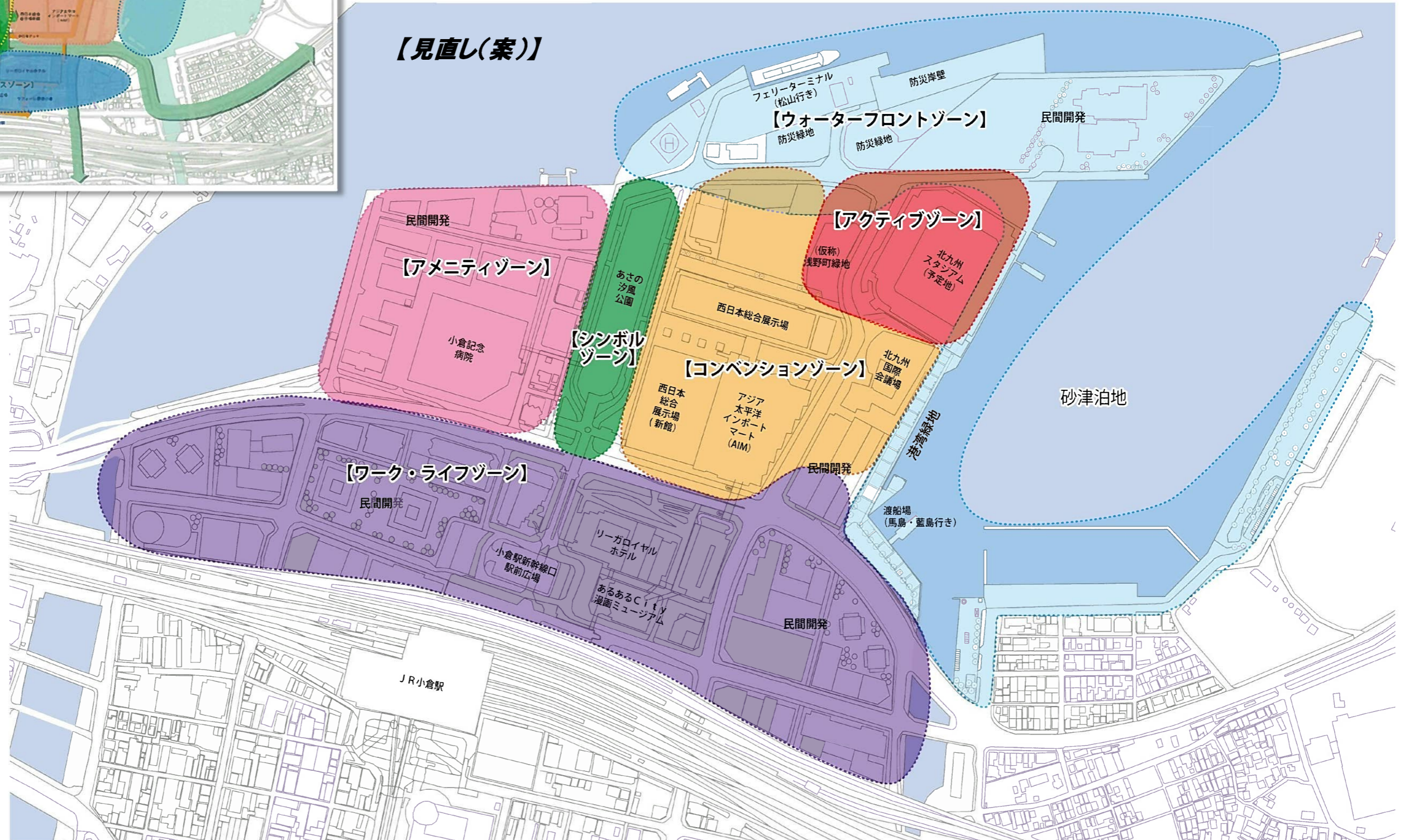
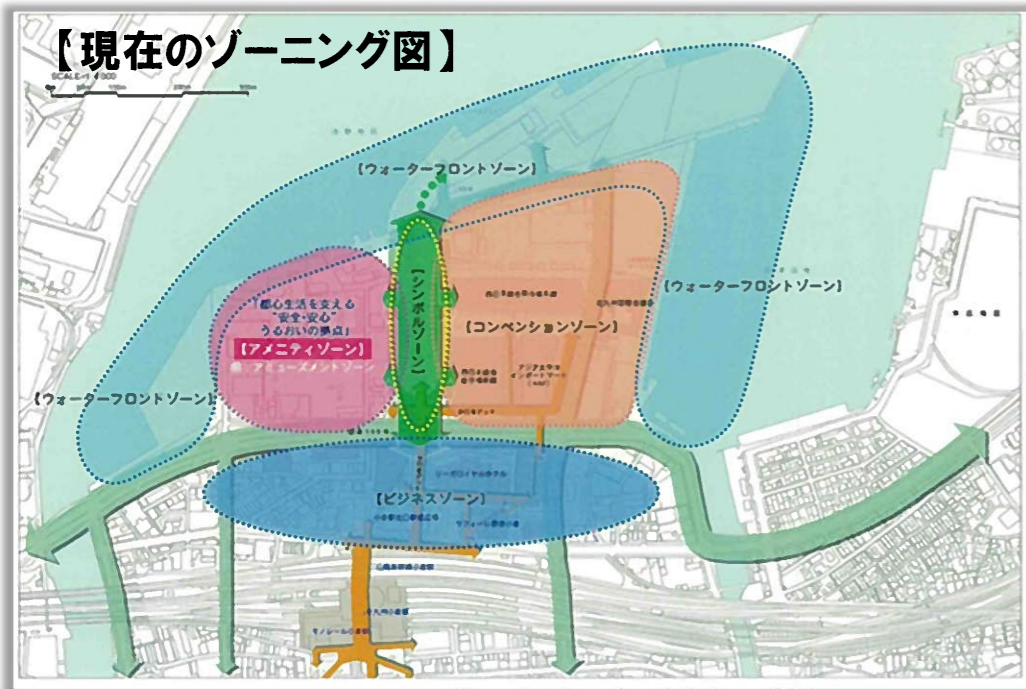
現在、小倉駅周辺に指定されている『都市再生緊急整備地域「小倉駅周辺地域（52ha）」』の区域を新幹線口地区に拡大することを検討し、民間開発の誘導を図る。

5. スケジュール(案)について

○平成27年5月13日 常任委員会 見直し(案)報告

○平成27年5月下旬 地元自治会、関係機関等協議

○平成27年8月 常任委員会 見直し報告



やすらぎルート(案)

にぎわいルート(案)

- 歩行者系動線 (地上1Fレベル)
- 歩行者系動線 (地上2Fレベル)
- 主動線

【イメージ図】 歩行者ネットワーク

◆ (仮称)浅野町緑地 (A=4,000 m²)
 スケートボードやストリートダンス、ミュージックができる広場として、また、スタジアムや周辺施設と連携した各種イベント、ケータリングの場として利用

◆ 横断歩道橋 (L=35m, W=8m, エレベーター1基)
 ◆ スタジアム外周デッキ (L=450m, W=5~15m)
 (仮称)浅野町緑地からスタジアムを経由し、港湾緑地に至る回遊ルート

◆ 北九州スタジアム整備事業 (PFI 事業)
 Jリーグ・J1 基準対応、約 15,000 人収容
 メインスタンド、サイドスタンドの屋根設置

◆ 港湾緑地 (A=6,000 m²)
 親水性を高め、海辺の魅力を感じながら散策できる空間



【イメージ図】 北九州スタジアム



【イメージ図】 (仮称)浅野町緑地、横断歩道橋